

令和8年度

教育指導計画

京都市立向島秀蓮小中学校

I 教育理念と校訓 (開校時の教育理念と校訓が引き継がれることを祈り、ここに示す)

(1) 教育理念

【豊かな人間性を育み、人間力を高める】

向島秀蓮小中学校は、「未来を担う子どもたちのために新しい学校の創設を」との地域や保護者の願いのもと、9年間の学びと育ちのつながりを一つにした新しい施設一体型の「義務教育学校」である。

地域の人々の願いや協力によって支えられる本校教育においては、地域の人々と連携し、共に地域の子どもたちを育てていくという使命感をもって、教育活動を地域全体で推進していくことが大切になる。義務教育学校として、新たに本校の教育が発展していくために、向島地域の歴史や取組、地域住民の学校への思いを受け継ぎ、家庭・地域社会との連携・協力により、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「変える・変わる そして輝く」のコンセプトのもとに「学校が育つ 地域が育つ 人が育つ」学校教育を推進していかなくてはならない。

社会に目を向けると、子どもたちが生き抜いていくこれからの社会は、IoT や人工知能等の情報技術の進展やグローバル化といった変化が人間の予測を超えて急速に進展していきとされている。未来を担う子どもたちが、こういった社会変化の中にあっても、高い志や意欲をもった自立した人間として自分と社会の豊かな未来を創造していく力を育むことが求められている。

本校の教育においても、10年後、20年後の社会情勢を鑑みながら、「意欲をもって自ら学び、考え、表現する力」を身に付けるための学びを軸としつつ、「一人一人の未来を拓く力」の育成を図っていかなくてはならない。また、社会がいかに目まぐるしく変化する時代になったとしても、生きていく上で大切にしたいことを、自らを律しつつ、他者と協働し、たくましく生きるという「人としての在り方」を実現させることと考えている。そのために、「誠実さ・謙虚さ・思いやり・感謝・純粋な心・挫折に負けない心」といった豊かな人間性を育むことを教育の柱とし、その人間性を持って、社会変化に対応できる「知・徳・体」のバランスのとれた人間力を高める教育を充実させていかなくてはならない。

最後に、義務教育学校として開校した本校では、9年間という今までにない長く連続した期間の中で、子どもたちの学びと育ちをつなげていくため、授業の質を高めることをねらいとした学習指導要領の改訂等教育改革の中で果たす役割は大きく、義務教育9年間を見通したカリキュラムの系統的な指導を実践し、心豊かで、学び続ける姿勢を持った人間の育成に寄与する。そして、どのように時代が変化しようとも一人一人が豊かに生き抜いていくために「豊かな人間性を育み、人間力を高める」という教育理念を掲げ、その理念を創造・実現させていくためには、本校教育に携わるすべての人が使命感と情熱を持ち続けていくことが大切になる。

(2) 校訓

【「自立」「清心」「貢献」】

自立：①主体的に学びに向かい、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができる人間の育成

②困難を乗り越えるたくましい心を持ち、他者と助け合いながら協働できる人間の育成

清心：①美しい蓮の花のように純粋で清らかな心を育み、誠実・謙虚で思いやりのある人間の育成

貢献：①地域や社会に向き合い関わり合い、自己実現を目指すとともに、社会のため人のために行動できる人間の育成

②「人とつながり、ともに学び、支え合う力」を高め、より良い自分、より良い社会の実現のため自ら考えて行動することができる人間の育成

II 教育目標とめざす生徒像

(1) 教育目標と資質能力

《学校教育目標》

「未来をひらく人になる」

～果敢に挑戦、知らない自分に会いに行け!～

< 9年間で身につけたい6つの力 >

- ・多様性を認める力 = 他者への思いやりの心を持ち、多様な人とのつながりを大切に、共に生きていこうとすることができる。
- ・コミュニケーション力 = 考えや立場の違いを理解し、自分で考えたり、相手の考えを理解したりして伝えあい、つながりをさらに深めることができる。
- ・折れない力 = 失敗を恐れず、粘り強くたくましく挑戦し続けることができる。
- ・自律的活動力 = 自らを律する力を身に付け、個人や集団がよりよくなるため誠実かつ実直に行動できる。
- ・発信する力 = 相手にわかりやすく自分の考えを様々な方法で伝えることができる。
- ・考える力 = 主体的に課題について学び、知識を生かし、多様な考え方に触れ、課題解決に向けて深く考えることができる。

《BSの6つの力》

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| もういちど、なんども(折れない力) | はなす、きく(コミュニケーション力) |
| みんなといっしょに(コミュニケーション力) | よいところを見つける(多様性を受容する力) |
| じぶんたちでできる(自律的活動力) | いっばいかんがえる(考える力) |

学校教育目標を実現するために重点化した6つの力は、9年間を見通した「学びのつながり」「育ちのつながり」とその土台となる「健やかな健康、成長」を核としたカリキュラムを実践し、「学びを習得していく過程」や「学校教育全般の中においてひたむきに取り組む過程」の中で、結果として身に付くものとして考える。これらは、全ての学校教育活動において育まれるものであり、様々なつながりを大切にすることで、向島秀蓮の生徒の「未来を拓く力」育成され则认为。

目指すは自立した社会人としての必要な生きる力の基礎であり、どのように時代が変化しようとも豊かに生き抜いていくために必要な力となると「主体性」と「社会性」の育成である。

(2) 目指す学校像

本校は「向島の子どもたちに素晴らしい教育を」との地域の願いから創立された。地域や保護者の期待感は大きく、その願いに応え、常に新しい挑戦をしながら進んでいく使命を負っている。

「生徒、保護者、地域、教職員にとっての幸せな学校づくり」を生徒、保護者、地域、教職員の共通スローガンとした学校づくりを通して、生徒が「通いたい」と思える学校の実現を目指し、地域・保護者の期待に答える「通わせたい、信頼のある学校」の実現を目指す。

明日も来たい学校

(3) 目指すステージの生徒像

卒業までに 実現させたい姿	【知】つながりを大切に し、自ら学び続ける姿	【徳】自他の良さを大切 にし、逞しく挑戦する姿	【体】自分を大切にし、 健康に生きようとする姿
ビジョンステージ	ひたむきに学び続ける姿	逞しく挑戦し続ける姿	生活習慣を自分で管理する姿
チームステージ	協力し学び合う姿	協力し高め合う姿	基本的な生活習慣を乱さない姿
ベーシックステージ	いっしょに学ぶ姿	仲良くがんばる姿	基本的な生活習慣が身についている姿

(4) 目指す学年像

卒業までに 実現させたい姿	つながりを大切にし、自 ら学び続ける姿	自他の良さを大切にし、 逞しく挑戦する姿	自分を大切にし、健康に 生きようとする姿
9年	未来を拓くため、あきらめ ずに、ひたむきに学ぶ9年	学校のリーダーとして集 団の向上を体現し、支え あい、喜び合える9年	進路を見据えて自らの生 活をよくするために習慣 を管理する9年
8年	社会とのつながりを意識 して新たな挑戦をし、学 び続ける8年	未来を考え、夢やなりた い自分に向かって集団で 努力できる8年	最高ステージとしての生 活習慣を自ら考え調整す る8年
7年	学ぶことの意義を見出す 7年	TS リーダーとしての姿を 探し求める7年	基本的な生活習慣と健康 の関係を意識して、自ら 守り切る7年
6年	自分の学習を調整するた めに、学び合いを大切に する6年	自分たちで考え、実践す ることの楽しさと責任感を 学ぶ6年	基本的な生活習慣を整える ことの価値を知り、乱さな い6年
5年	自分の学習を調整するこ とを学ぶ5年	失敗を恐れずチャレンジ する5年	基本的な生活習慣を意 識して守り切る5年
4年	みんなで学んだことを自 分の学びに生かす4年	BS のリーダーとして、ス テージのことを考え、自分 の言葉で思いを伝えるこ とができる4年	基本的な生活習慣がしっ かり身につけ実行できる 4年
3年	みんなで学ぶ中で自分を 振り返ることのできる3年	みんなの思いを大切に し、自分の思いを伝える 楽しさを感じる3年	基本的な生活習慣を整 えるために何が必要か考 えられる3年
2年	みんなで学ぶおもしろさ に気付く2年	お互いを応援し合い、み んなでがんばる2年	元気に登校するために早 寝早起きができる2年
1年	みんなで学ぶことの楽し さを感じる1年	自分も友達も大切にし、 素直にがんばる1年	学校の生活リズムをつか む1年

(5) 研究テーマ（学び推進部・人育ち推進部・健康推進部、企画部、管理部、5部 共通テーマ）

「たこおじはっか（もみじはよい）の育成」

～考えよう やってみよう 次はどうする？～

全ての教育活動で、この研究テーマをもとに指導、企画、運営を行う

【京都市学校教育の重点 目指す子ども像】

「伝統と文化に学び、次代と自らの未来を想像する子ども」

【学校教育目標】

「未来をひらく人になる！」
～果敢に挑戦、知らない自分に会いに行け～

【めざす学校像】

「明日も来たい学校」

【めざす生徒像】

「強い心を持って、進み続ける生徒」

【本校で身に付ける「6つの力」

- ・多様性を認める力
- ・コミュニケーション力
- ・折れない力
- ・自律的活動力
- ・発信する力
- ・考える力



(BS)

- ・もういちど、なんども
- ・みんなといっしょに
- ・じぶたちでできる
- ・はなす、きく
- ・よいところを見つける
- ・いっばいかんがえる



- ・睡眠、食事、環境
- ・健康的に成長する
- ・運動に親しむ

- ・はやくねる
- ・あさごはんをたべる
- ・そとであそぶ

【研究テーマ】

(学び、人育ち、健推、企画、管理、5部共通テーマ)

たこおじはっかの育成

「たこおじはっかで未来をひらく」

～ 考えよう、やってみよう、次はどうする？ ～

朝読書	清掃	給食	ピアサポート	生活のきまり	貢献的活動	生徒会活動	部活動	学年活動	学級活動	学級活動	文化体験学習	校外学習	学校行事	道徳の時間	総合的な学習の時間(探究活動)									
															英語・外国語	技術家庭	生活	体育・保健	美術・図工	音楽	理科	算数・数学	社会	国語

道徳教育・人権教育

愛と熱

～生徒に愛あれ！教育に熱あれ！～

【めざす教職員像】

愛と熱ほとばしる伴走者たれ！～学び続け、高め合う教職員集団～

Ⅲ 学校経営方針

- 地域の期待を背負ってたつ学校を経営することに誇りをもつ。
- 全教職員で教育目標の達成及び、6つの資質能力を目指すため、以下のように方針を示し、義務教育学校だからこそ実現できる新しい教育を全教職員で創造していく。

《確かな学力》

- 学力向上プロジェクトチームを中心として、全教職員で学力向上を必ず目指す。
- 自己調整力(主体的な学びの三要素『学習方略・メタ認知・自己効力感』)の育成
 - ・反転学習等を効果的に取り入れ、探究活動や対話的な学習につなげる。また、単元構想を生徒に示すことで、単元の目標および各時の目標が見える化し、主体性を持たせる一助とする。
 - ・日々の授業と家庭学習との一体化を通して、自学自習の習慣化を図る。また、デジタルドリルや自学自習シートの活用等を通し、自分が必要とする学習課題を的確に選択して取り組む力の育成を目指す。
 - ・総括考査や評価を通して、生徒のメタ認知、学習方略の一助とする。
 - ・ふりかえりを起点とした学びを重視する。

○授業づくりの視点

- ・担当する「教科の見方・考え方」について、教師が自分の言葉で話せるようになる。
- ・「資質・能力の育成」を目指し、前後期課程合同教科会を主体とした「主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善」を推進する。
- ・生徒が学びを実感することができる機会に注力するため、体験活動を含めた単元構想を行う。
- ・総合的な学習の時間をはじめとする教育活動全般において、探究的な活動や課題解決学習を軸にし、主体的に学ぶ姿の実現をめざす。また、課題解決に向け粘り強く取り組む活動を企画し、「折れない力」の育成を図る。

○総合育成支援の視点

- ・総合育成支援の視点を常に持ち、理解と認識を深め、生徒が自分の苦手なことに劣等感を抱かずに、取り組める支援と周りの生徒を含めた学習環境を整える。
- ・個別最適な学びと協働的な学びにおける効果的なICT活用の研究に取り組む。
- ・生徒を観察し、生徒の反応や振り返りから、学びの状況を的確に把握し、指導の改善に生かす。
- ・個別の指導計画等を利用し、個別に有効な教材や指導方法、ICTの活用等により、個に応じた適切な支援を行う。

○基礎学力の育成に向けて

- ・チャレンジタイム、帯時間を、基礎学力を養う重要な時間ととらえ、朝読書等の取組の充実を図る。
- ・4年生までは、基礎基本の確実な定着を目指し、繰り返す学び、書くことの重要性を認識し、これらの取組みが苦痛だけを伴うものではなく、達成感を伴う取り組みにする。
- ・学力補充講座を有効に活用し、生徒の学力向上を目指す。

《豊かな心》

- 「人間性を高める」を実現し、「多様性を受容する力」を育成するために、人権教育や道徳教育を推進し、「いのち」の大切さや人権尊重の理念を正しく理解するとともに、「子どもの命を守りきる」教育活動を全教職員で進める。
- 学校は失敗が許される場。学習者目線に立ち、生徒が自分らしい生き方を探究するための機会となる教育活動を展開する。
- 生徒指導の4つの視点(自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安全安心な風土の醸成)に基づく教育活動を推進する。
 - ・「自分を大切にします。」「まわりの人を大切にします。」「地域を大切にします。」「時と場合を考えた身だしなみを大切にします。」の4つの柱を軸とし、生徒自らが望ましい学校生活を考えることができる指導を行う。

- ・生徒への問いかけ・提案を重視し、生徒に内在する思いを引き出す丁寧な指導を行う。
- ・「させる生徒指導」から「支える生徒指導」への転換を自分事として取り組む。
- ・「自尊感情」を高めることを中心に据え、対話をもとに一人一人の心に寄り添った指導・支援を心がける。
- ・「主体性」を高め、自立活動力を育成する生徒会活動を推進する。
- ・社会性と情動性を育成するために、SELを活用した取組を推進する。

○人権教育の4つの視点（「人権としての教育」「人権を通じた教育」「人権についての教育」「人権のための教育」）を意識し、様々な教育活動において人権教育を行う。

- ・育成学級における生徒一人一人の個性・資質・能力を最大限に引き出し、学習や生活習慣の定着を図るとともに、自立した生活ができるように指導する。また、交流学級など連携を深め、児童生徒間の連帯感を高め、共生社会に向け、共に学び合う意識を育成する。
- ・道徳教育を要とし、生徒たちの相互理解を深め、心豊かな人間を育成する。
- ・デジタルシティズンシップ教育を推進し、デジタル技術の利用を通じて社会に積極的に参画しようとする姿勢や情報モラルの重要性を学び、誰にとっても幸せな使用の仕方を育成する。

○「明日も来たい学校」をスローガンとした生徒会活動を通し、生徒主体の学校づくりを推進していく。

○学年、ステージを超えて異学年がともに活動し、学びあい、成長する教育実践を進める。

○SDGsの目標達成を視野に入れた教育活動を実践する。

《健やかな体》

○本校で目指す学びと心の成長の基盤は健やかな体であることから、日常的に生活習慣や体力の向上を目指した取組の充実を図る。

- ・自分の将来を意識し、自分の体や心を大切に、より健康に生きていくために、年間を通して生活全般における指導（性に関する指導・飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育・歯と口の保健指導など）を行う。
- ・睡眠に関わる調査や面談などを通して生徒の睡眠にかかわる意識改革や取組を重点化する。
- ・給食の時間を「楽しく会食する時間」として位置づけ、他とつながる力の育成のための場として取り組み、食材を生きた教材として食育を推進するとともにつつましい食習慣の確立をめざす。
- ・体力向上の活動を通して、楽しさだけではなく厳しさも体験し、それらを乗り越える逞しさ、折れない心の育成に努める。

○学校での取組を家庭とも連携し、生徒の生理的欲求の向上につながるよう保護者への啓発を行う。

《学校運営》

○地域の就学前施設と架け橋期の子どもへの育ちへの願いを共有し、互いの教育・保育の接続が機能するよう取り組みを進める。

○学校運営協議会を軸に保護者・地域との連携を密にし、協働しながら社会に開かれた教育を推進し、地域貢献に取組み、地域を大切にすることを養う。

○学校だよりやHP、学校公開などを積極的に活用し、教育活動を地域、保護者に発信する。

○校務の効率化、業務改善の視点をもって学校運営を行い、働き方改革を推進する。

○アンケートや学校評価等を軸としたPDCAサイクルを確立させ、教育課題を明確にしながら改善を図っていく。

○架け橋期の教育の充実に向けた相互理解を図る幼保小の連携・接続の推進を図る。

○9年間の伝統文化教育を通じて、大切に受け継がれてきた伝統文化の中に生きている良さを感じ、文化を継承する心と態度を育成する。人間性を高めることをねらう。

IV 教育の特色と内容

一貫教育を「教育の手段」として捉え、以下に示す 3 つのつながりを意識し、積極的に活用する教育活動を実践する。

① 異学年のつながりを用いる

- ・同学年同志の活動では得られないものが得られる。
- ・社会では、物事を異年齢の人と協働して達成していく必要があり、異学年とつながる経験が大切となる。
- ・上記2つについては、年齢差が一定ある方が効果的であることが多い。
- ・横の繋がりでは、リーダーシップを発揮できない子も、縦においては発揮しやすい。また、その経験が今後生きてくることも多い。
- ・ピア活動・生徒会活動・部活動などを中心にした取組みは、自尊感情を育てる有効的な手段である。

② 学びのつながりを用いる

- ・9年間を見通した指導ができ、6年生をゴールとするのとは異なる結果が得られる。6年生までを知らずに教育活動を行うのとは異なる結果が得られる。
- ・9年卒業時を意識させる指導ができ、さらにその先にも目を向けることが可能となる。
- ・教える経験をさせることができる(教えることが一番の学びであることを生かす)

③ 地域とのつながりを用いる

- ・保護者・教職員以外の大人(地域)に育ててもらう環境づくり。地域との連携を推進し、地域にも9年間で育ててもらうという風土を醸成する。
- ・総合的な学習の時間を中心にして地域貢献(防災教育・ボランティア活動を含む)をテーマに学習活動を進める過程で、自身の住む地域やそこに住む人々を知ることによって「地域を誇りに思う気持ち」の醸成をねらう。
- ・京都市、そして向島地域が所有するところの「学校」の使命は地域貢献である。

京都市職員としての自覚

最後に、京都市職員であること、教育公務員であることを忘れずに学校教育を遂行するために、「京都市職員の倫理を確立するための行動規範」を、ここに記します。

- 一. 公私にわたり、高い倫理感を持って、行動します。
- 一. 市民の目線に立って、仕事に全力投球します。
- 一. 法令等を遵守し、不正を許さず、公正に仕事をします。
- 一. 情報を市民に分かりやすく伝え、説明は丁寧に行います。
- 一. 自己研鑽に励み、絶えず改革に取り組みます。